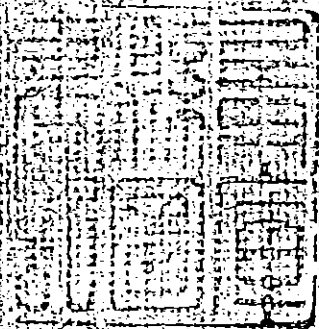


兵庫縣漁業慣行録

淡水漁業之部 卷之廿



兵庫縣漁業慣行録卷之二十 淡水漁業之部

但馬國氣多郡

圓山川

第一章 漁制

第一款 掟類

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漁税ニ関スル事

岩中村

鮎漁業ハ天正八年小一郎秀長氏本村四人ノ漁者ニ免
 税漢業ヲ許ス後今領主仙石氏ノ頃ヨリ川役ト稱シ銀
 二拾匁及ヒ運上下ニテ生鮎四十七ヲ納ム天保七年領
 主交替ノ際運上鮎十鹿セラレ鮎川役ノミヲ納ム維新
 ノ際ヨリ金三拾三錢三厘トナリ明治二年ヨリ川漁

鑑札ヲ受ケ具料トシテ一人ニ付金六錢三厘五毛ヲ納
 然ルニ同四年ニ至リ川役同七年ニ及テ鑑札共
 廢止トナリ更ニ川漁稼免許ヲ願ヒ手数料トシテ金二
 錢ヲ納メシカ同十二年以降亦廢止トナレリ
 本村漁業者ハ地下村ニ川運上トシテ金二拾五錢宛
 渡シ同村漁業者ト同一ニ營業スルノ慣行ナリシカ維
 新以後廢止トナレリ
 菅田村 江原村
 舊藩時代ヨリ地下村ニ川運上トシテ金二拾五錢宛
 渡シ同村漁業者ト同一ニ營業スルノ慣行ナリ維新以
 後廢止トナレリ
 久斗村 松岡村 土居村 池上村 西芝村 土淵村
 清冷寺村 伏村

從來漁業ヲナセシト雖モ納稅セシトナレ

國保村

舊藩時代ヨリ年々川役トシテ銀三匁宛ヲ納メ来リシ
 カ維新後久美濱縣ヲ置カレニ及シテ廢稅トナレリ
 日置村

鮎、鱒、鯉、鮒、イヌ、漁業ニ付舊領主仙石氏時代ヨリ納稅
 ス即チ鱒川役銀拾七匁、鮎川役銀二拾匁外ニ運上トシ
 テ生魚四十七尾ヲ納メシカ天保七年領主交代ノ際生
 鮎運上ハ廢止セラレ鱒川役拾七匁、鮎川役二拾匁ノ
 ヲ納ム維新ノ際之レヲ六拾目金ニ改メ即チ鱒川役ハ
 金二拾八錢三厘、鮎川役ハ金三拾三錢三厘宛トナリタ
 リ翌二年ヨリ營業鑑札ヲ受ケ具料トシテ金拾二錢五
 厘ヲ納ム同四年川役廢止セラレ川株隨テ消滅スル後

、沿革岩中村 = 同

鶴岡村

鮎渙業ハ天正八年小一郎秀長氏ノ領八人ノ渙者ニ免
 税渙業ヲ許ス其株ハ下リ後千仙石氏ノ所領トナリ川
 役ト稱ヘ米一石口米三升外ニ運上トシテ目ノ下八寸
 ノ鮎三十尾ヲ納ム天保七年領主交替ノ際運上鮎ハ廢
 止セラレ川役ノミヲ納ム維新ノ際ヨリ納米ヲ石代ニ
 改メ川株主中四人ノモ、ヨリ之ヲ納メシカ明治二
 年ヨリ鑑札ヲ受ケ其料トシテ金六錢二厘五毛ヲ納ム
 同四年川役廢セラレ隨テ川株消滅ス尔来鑑札ヲ受ケ
 ルモノハ何人ニテモ營業ニ得ルトナレリ同七年鑑
 札廢止セラレ爾後、沿革岩中村 = 同
 上郷村

鮎渙業ハ元禄年中ヨリ鮎川運上トシテ年々米一斗二
 升ニ合テ川株主八人ヨリ株主平均ノ割納メシカ天保
 年中舊領主交替ノ後鮎川役トシテ年々永若干文ヲ納
 ム川株主平均ノ割明治八年地租改正ノ際廢税トナレリ
 府市場村

鮎渙業ハ元禄年中ヨリ鮎川運上トシテ年々銀三百目
 ヲ川株主八人ノ者ヨリ納メシカ天保年中舊領主交代
 ノ後鮎川役トシテ永五百文宛ヲ納ム川株主平均ノ割
 明治八年地租改正ノ際廢税トナレリ

中郷村

鮎渙業ハ元禄年中ヨリ川役ト稱ヘ銀三百五十文
 宛年々納メシカ天保年中領主交替ノ後銀二十八文ニ
 減ス維新後明治二年ヨリ税金トシテ金一圓八錢三厘

花納、同八年改組小物成廢止、際廢税十、其後
 同十二年ヨリ鞋單税トシテ更ニ金拾一圓宛ヲ納メタ
 リ
 明治六年頃漢業鑑札ヲ受テ其料トシテ金拾二錢五厘
 ヲ納メタリ

第二款 規約及慣例

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漢業ニ関スル事

第一節 漢榷

岩中村

旧藩中ハ川株アリテ漢榷ヲ有セシカ
 明治四年ニ至リ
 川株廢止ニル未一般自由營業トナレリ
 但漢場ハ本川
 筋養父郡界字昼岩ヨリ本郡日置村字岩ヶ瀬
 至テ
 曾田
 江原、日置及本村、同業者申合セ入會トナレリ

曾田村

本村蓮生寺ノ南側ヨリ日置村分字立隈ニテ
 本村ノ
 漢場トス

久才村 江原村 土淵村 清冷寺 伏村

本村ハ從來漁業ヲナスト虽モ一定ノ區域ナク一般入會漁業ヲナスノニ

国保村

本村漁場ハ字々ヨウモヨリ城山迄ノ間トス

日置村

本村ニ川株三アリ本村北村惣兵衛之レヲ有ス寛政五年江原村新免三郎兵衛ヨリ銀百目ヲ以テ買受ケリ故ニ新ニ漁業ヲナシトスル者ハ同人ノ許諾ヲ受ケタルニ非サレハ之レヲ許サズ而シテ川株ハ金借抵當トナシ或ハ適宜貸借スルヲ得ルノ例ナリ又本村ハ自由船上漁業ヲ営ムモ其他ハ陸地漁即チ陸地ヨリ投網ヲ以テ漁獵スルノ外之レヲ為スヲ得ケルノ慣行ナリ然レニ明治四年川株消滅セシヨリ鑑札ヲ受ケルモノハ何人ニテモ営業スルナトナ

リ一般自由ニ漁業ヲナスナトナレリ但シ養父郡男字登岩ヨリ本村字岩ヶ瀬ニテハ本村ノ漁場ニシテ其他ハ一般ノ入會トス

鶴岡村

従前ハ川株ノ特權アリシモ維新後消滅セリ然レモ漁場中日置村字岩ヶ瀬ヨリ土居村字々テ岩迄ハ單ニ日置村トノ入會稼ニシテ他人ノ入漁ヲ得ズ其他ハ一般ノ入會トス

松岡村

本村漁者ハ元ト上郷村ノ川株ヲ借り川漁業ヲナシシニ維新後川株廢止シ一般入會漁業トナレリ
土居村 西芝村
本村漁者ハ上郷村及府市場村ノ川株ヲ借り漁業ヲナ

セシカ維新後營業ヲナスト松岡村ニ同シ

上郷村 府市場村

本村ニ川株ヲ有スル各ハ株ニシテ漁業ヲ専ラニセリ
而シテ川株ハ之ヲ賣買及貸借スルヲ得該價金ハ現
時ノ價格凡ニ圓以上三圓以内貸借料ハ金三拾錢ニシ
テ之レヲ株主ニ納メシカ維新後自由營業ト松岡村
ニ同シ

中郷村

本村漁業者十一人アリテ各川株ヲ有シテ漁業ヲ専ラ
ニセシカ明治六年營業鑑札ヲ以テ漁業ヲ許サル、ト
トナリ尔後一般自由ノ漁業トナレリ

池上村

本村漁者ハ府市場村、川株ヲ借り漁業ヲナセシカ具

後自由漁業トナリタルト松岡村ニ同シ

第二節 仲間加入ノ仕来

日置村

新ニ漁業仲間ニ加入セントスルハ舊漁者ニ一二外
清酒ヲ贈リタル後之レヲ許セリ

上郷村 府市場村

新ニ川漁仲間ニ加入セントスル者アルハ村内協議
ノ上之レヲ許否ス維新以後ハ官廳ニ出願シ許可ノ上
漁業鑑札ヲ受テ營業スルトナリタリ

中郷村

漁業株ヲ賣買ニ或ハ仲間加入ヲ請フ等ノ者アルハ
現株主申合ヒ一株金三拾圓乃至五拾圓ヲ以テ賣買ニ
又ハ加入ヲ許ス等ノトモアリタリ

第二款 漁期
第一項 期節

捕魚期節左如之

品名	期節	自	至	鰻	鱈	鯉	鮎	鮭	雜魚
岩中村 青田村	期節 良時季	自二月	至四月						自三月 至十月
久井村 江原村	期節 良時季	自六月	至十月				自六月 至十月		自九月 至翌年二月
日置村	期節 良時季	自三月	至三月		自三月 至十月		自二月 至十月	自十月 至翌年三月	自十月 至翌年三月
鶴岡村	期節 良時季	自二月	至四月				自五月 至十月	自十月 至翌年一月	自十月 至翌年三月
國保村 松岡村	期節 良時季						自四月 至十月		
土居村 上柳村 府前西里村	期節 良時季					自九月 至翌年二月	自六月 至九月	自九月 至翌年一月	自十月 至翌年三月
中郷村	期節 良時季	自二月	至四月			自五月 至翌年一月	自五月 至十月	自十月 至翌年三月	自三月 至四月
池上村 上岡村 清等村 伏村	期節 良時季						自四月 至十月		自年

系

第三款 漁場

圓山川ハ水源ヲ本國朝来郡ニ發シ養父郡ヲ經過シ同郡
 淺倉村ヨリ本郡岩中村ニ来リ北流シ伏村ニ至リ城崎郡
 佐野村ニ入ル郡内延長二里三拾五町四拾六間ニシテ川
 幅ハ南本郡境ヨリ下凡十町即チ江原村ニ於テ五拾間又
 一里半即チ中郷村ニ於テ七拾間トス水色ハ清ク流勢ハ
 中郷村邊迄ハ概テ急ナリ水底ハ砂石トス以下流末伏村
 迄一里半ハ緩急相半ニ水底ハ細砂トス
 本川沿村漁業ノ區域左ノ如シ但漁獲ノ主ナルモノハ鮎
 鮎、イヌ、鯉ノ類ニシテ漁獲ノ盛ナル地方ハ鮎ニ在テハ岩
 中村ヨリ上佐野村迄凡二里半ハ間トス、鮎ニ在テハ中郷
 村及鶴岡村中郷村上九郷村一里ヨリトス、イヌニ在テハ岩中村ヨリ中
 郷村二里間九迄トス、鯉ニ在テハ菅田村ヨリ鶴岡村菅田村又村

郡界ヨリ以下九六丁ニ至
テ是ヨリ以下九三丁ニ迄トス

岩中村 菅田村 久井村 江原村 日置村

南、養父郡宿南村字寄宮ヨリ北、城崎郡佐野村ニ至ル

三里ノ間ニ於テ渙ス

国保村

本村ハ字千ヨリニヨリ城山迄ノ間ニ於テ渙ス

鶴岡村

銚、罇、渙、場ハ本村字岩ヶ瀬ニ單ヲ設ケテ渙ス其他ハ

渙業ハ本川流域内一般トス

松岡村 土居村 上郷村 府市場村 西芝村

南、鶴岡村字ウス溝ヨリ北、城崎郡今森村川渡ニ上リ

至ル凡七拾二町ノ間ニ於テ渙ス

中郷村

銚、罇、渙、場ハ本村字渡ニ上リニ單ヲ設ケテ渙ス其他

、渙業ハ本川流域一般トス

池上村 土淵村 清冷寺村 伏村

本川流域内ハ一般入會ノ渙業トス

第四款 入會漁船數

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具，現數左，如左

漁具名	鯉船打網	鯉落網 <small>一名「三」網</small>	鯉船投網 <small>一名「四」網</small>	鮎曳網	鮎單張網
岩村	六				
菅田村	九	五	三		
江原村	五		一		
土岡村	四		二		
清澤村	八		一		
伏村	四				
目保村	三				
置村	二				
鶴岡村	一八		六	一	
松岡村	六		二	一	
土居村	三				
里村	五				
上柳村	八		二		
唐澤村	二〇		一〇		
中柳村	三六				
池上村	二一		三		一
合計	五	五	三一	三	二

第二項 漁船

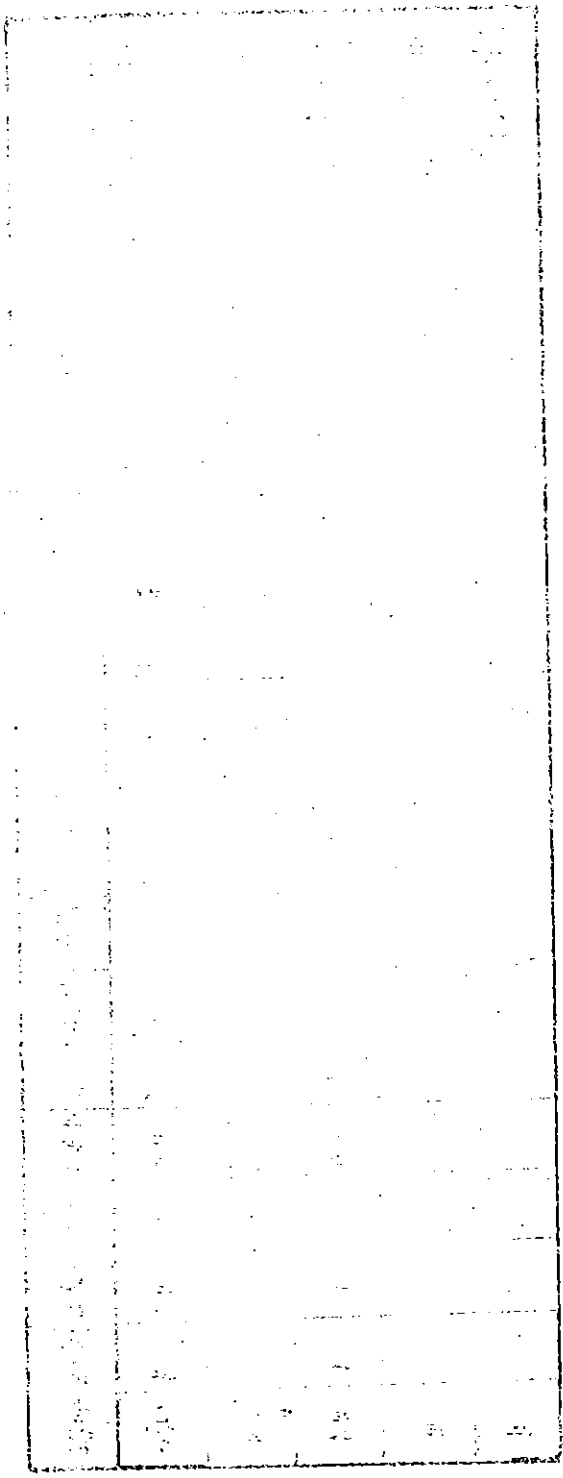
漁船，現數左，如左

船種	岩村	菅田村	江原村	土岡村	清澤村	伏村	目保村	置村	鶴岡村	松岡村	土居村	里村	上柳村	唐澤村	中柳村	池上村	合計
船種																	
合計																	

三間以漢船

- 一
- 一
- 一
- 四
- 二
- 三
- 一
- 三
- 三
- 二
- 二
- 三
- 三
- 三
- 七
- 三九

舟庫



第六款 漢法

鮎漢

曳網 漢季七月ヨリ十月ニ至ルノ間河水減少ノ時ヲ待テテ使用スルモノニテ漢船二艘各二乗ニテ漕出シ河中水底岩石等ノナキ平坦ニテ魚ノ左モ集合セシ場所ヲ撰ニ網ヲ投シ尋テ各左右ニ分レ斷次網ヲ下シ進ニテ陸ニ達ス時ニ又魚ヲ網中ニ驅リ入レニ為テ數十間ノ下流ヨリ續シ石片ヲ投シテ溜リ其魚ノ集ルヲ見テ之ヲ止ム陸ニハ曳子六名左右ニ分レテ具網ヲ引キ上テ捕獲スルモノトス漢時ハ午前午後或ハ夜中トス當地ノ鮎魚ハ特ニ美味アリ世ニ但馬蓼川香魚ト稱スルハ即チ是レナリ

以上ノ外本郡各漢法ハ城寄郡ニ全シ

第三章 蕃殖

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

本川沿村漁業ハ何レモ農業ノ餘暇ヲ以テ營ムモノナシ
 ハ著シキ盛衰ナシ然レトモ漁獲ニ至テハ明治五六年頃
 ニ比スレハ一般自由營業トナリタルヲ以テ自然濫漁ノ
 傾キアリテ漸次衰頹ノ景況ナリト云フ尙左表ヲ掲ケテ
 一般ノ狀ヲ示スヘシ

漁業概表

種別	曳網類 数量	建網類 全	敷網類 全
岩中村			五
菅村			
久手村			
江原村			
土淵村			
湯澤村			
伏村			
國保村			
置村	一		
鷓田村	一		
松岡村	一		
土居村			
西芝村			
上柳村			
磨澤村			
中柳村			
池上村			
合計	三	二	五

漁民 數人	漁船 數艘	掩網類 全	旋網類 全
二	一	六	
五	一	九	三
二		五	一
二	一	四	二
四	四	八	一
二	二	四	
三	三	三	
二	一	二	
六	三	一八	六
二	三	六	二
二	二	三	
四	二	五	
六	三	八	二
五	三	二〇	一〇
七	三	三六	
一一	七	二一	三
四		五	一
六九	三九	一六三	三一

第二款 營業種別
漁業者，種別左，如左

種別	鯉釣中網漁者	鯉釣投網漁者	鯉落網漁者	鮎引網漁者	鮎置張網漁者
岩中村	二				
菅田村	五	三	五		
久手村	四	一			
江原村	二	二			
土崎村	四	一			
通津村	二				
伏村	三				
田保村	二				
日置村	六	六		二	
雀岡村	二	二	六	二	二
松岡村	二			二	
土居村	四				
西足村	六	二			
上柳村	五	五			
廣橋村	七				
中新村	二	三			二
池上村	四	一			
合計	七一	二六	五	六	四

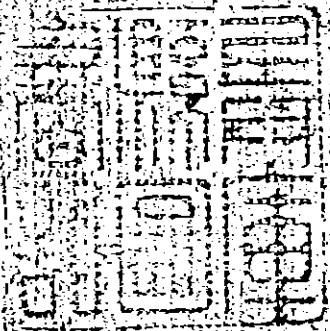
兵庫縣漁業慣行録卷之二十 終

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

兵庫縣

兵庫縣漁業慣行錄

淡水漁業之部
卷之廿一



兵庫縣漁業慣行録卷之二十一

淡水漁業之部

但馬國出石郡

出石川

出石川原町 全松枝町 全小人町 鍛冶屋村

第一章 漁制

第一欸 捉類

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漁税ニ関スル事

舊藩時代ニハ士族ノ外漁業ヲ禁セラレシカ維新後漁業
鑑札ヲ受ケ一人ニ付十二錢五厘ノ鑑札料ヲ出シ漁業ス
ルヲ得ルトナレリ後キ免許手数料トシテ金ニ錢ニ減
セシカ明治九年廢合縣ノ際廢止トナレリ

第二款 規約及慣例

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漁業ニ関スル事

第一節 漁權

舊藩時代ニハ士族ノ外漁權スルヲ禁セラレシカ維新後其禁解ケ一般自由營業スルヲトナリ目下何等ノ制アルヲナシ

第二節 仲間加入ノ仕来

第三節 他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

第四節 販賣ノ仕方

捕漁セシ魚類ハ直ニ需用者ニ販賣ス時トシテハ市場ニ出スモノアリ此場合ニハ歩錢ト稱ヘ市場ノ例ニ依リ競賣價十錢十レハ定價六錢一厘ニシテ内三厘ヲ問屋口錢

トシ残り五錢八厘ヲ漁者ノ利益トス

兵庫縣

第二章 漁撈

第一款 種類

第一項 品名

産出ノ水産物品名左ノ如シ

鯉コイ

鮎アユ

鮭サケ

雜魚ササギ

兵庫縣

第二款

漁期

第一項

期節

捕魚ノ期節左ノ如シ

鮪 周年

鮎 自三月至九月

鮭 自十月至十二月

雜魚 周年

第三款 漁場

出石川ハ源ヲ本郡藥王寺村ニ發シ氣多郡伏村ニ至テ圓
 山川ニ合ス延長八里二十七丁五十七間ニシテ川幅ハ水
 源ヨリ下凡五里即千寺坂村ニ於テ五十八間又流末ヨリ
 上凡一里伊豆村ニ於テ四十間トス水色ハ清ク流勢ハ源
 頭ヨリ下凡八里五丁即千伊豆村迄ハ急ニシテ水底ハ砂
 石ナリ以下氣多郡伏村迄凡二十三丁ハ緩ニシテ水底ハ
 細砂ナリ

本川漁場ハ一般自由入會ニシテ一定シタルモノナシ

第四款 入會漁船ノ數

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具ノ現數 明治十九年 左ノ如シ

種別	出石川原町	全松ヶ枝町	全小人町	鍛冶屋村	合計
鯉打網數	八	八	六	一七	三九
鯉打網數				三	三
鯉鮭猪數	八	八	六		一四

第二項 漁船

漁船ノ現數 明治十九年 左ノ如シ

種別	出石川原町	全松ヶ枝町	全小人町	鍛冶屋村	合計
三間以下漁船	一	一		二	四

第六款 漁法

本川漁法等ハ總テ城崎郡ニ全シ

第三章 蕃殖

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

維新前ハ士族ニ限リ漁撈ヲ許シタルヲ以テ漁獲限リアリテ相當ノ收益ナリシカ其後禁解ケ一般ニ自由漁業トナリタルヨリ漁者増加ノ為ニ漸次漁獲減耗シ景況ナリ尚左表ヲ掲ケテ一般ノ状ヲ示スヘシ

漁業概表

種別	掩網類 數量	叉釣類 數杖	漁民 數人
出石川原町	八	八	四
全松ヶ枝町	八	八	四
全小人町	六	六	三
鍛冶屋村	二〇		七
合計	四二	一四	一八

漁業者ノ種別左ノ如シ 第二款 營業ノ種別

種別	出石川原町	全松ヶ枝町	全小人町	鍛冶屋村	合計
鯉打網漁者				三	三
鯉鮭積漁者	四	四	三	七	一八
鮎打網漁者	四	四	三	七	一八

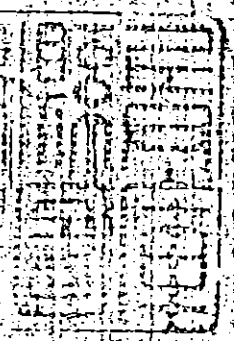
兵庫縣漁業慣行録卷之二十一 終

兵庫縣

兵庫縣漁業慣行錄

淡水漁業之部

卷之廿二



兵庫縣漁業慣行録卷之二十二

淡水漁業之部

但馬國城崎郡

圓山川

本川下流ハ潮水逆入シ故ニ下流漢村ニ在テハ鹹水魚漁業ニ関スル事

鹹水魚漁業ニ関スル事

附 樂々浦村沼 挑島村沼 赤石村沼

第一章 漁業の制

第一致 捉魚類

第一項 保護ニ関スル事

大磯村

漁期

鮭魚ノ漁期ハ舊領主京極氏ニ於テ秋土用曆十

日前ヨリ冬至迄ト定メ維新後明治十年迄續クテ之

ヲ守レリ第一章第二致第一項參觀スヘシ

漁具 舊領主京極氏ヨリ本村以北一日赤村迄ハ間ニ

於テ引網、敷張網、齒掛ケ網ハ本村鮭漁者ノ外ハ使用ヲ禁シタリ維新後其法自ラ弛ミシカ全十八年本縣丙第一号ヲ以テ鮭罩漁期中ハ本村以北津居山海口迄ノ間ニ於テ該網及六艘網引越シ網等六種ノ漁具使用ヲ禁シタリ

漁場 鮭罩漁期中ハ舊領主京極氏ニ於テ罩裏ト稱シ本村字宮ノ井戸ノ井戸ノ方言トハ物洗場罩場ヨリ北豊岡新町字安樂寺井戸迄ノ間ハ他漁者ノ入漁ヲ禁シ且該漁場ハ夜五ツ時ヨリ曉七ツ時迄ハ都テ通船ヲ禁シタリ維新後其法消滅セシカ明治十八年本縣丙第一号ヲ以テ更ニ宮ノ井戸ヨリ豊岡豊田町裏石積水勿迄ノ間ニ於テ他漁者ノ入漁ヲ禁シタリ○舊藩時代ニハ他領漁夫ノ入漁ヲ禁シタリシカ維新後其法廢

レ目今ハ本流一般入會漁場トナレリ

第二項 漁税ニ関スル事

佐野村

従来納税セシトナシ

九市六町村 九市下ノ町村 安樂寺村

舊藩時代ニハ鮭漁ノ外ハ何漁ヲ論セス漁業税トシテ

漁者一人ニ付年々銀二十匁ヲ納メ天保七年京極甲斐

ニ至リ更ニ税法ヲ改メテ鯉投網銀二十五匁中目投網

銀二十匁細目投網銀十五匁鳴子網延繩各銀五匁ヲ納

メシカ明治六年頃ヨリ廢税トナレリ

大磯村

舊藩時代ヨリ鮭漁ノ外何漁ニ依ラス納税セシトナシ

日市上ノ町村ニ全シ

鮭罽及地引網漁業ハ正保二年五味備前守時代ニ運上
 トシテ玄米五斗ヲ納メ万治三年五味藤九郎時代ニ至
 リ更ニ鮭十尾ヲ加ヘ納ムルトナシ其後不詳譜京極氏
 ニ至リ改メテ網役トシテ玄米五斗及鮭役トシテ銀六
 十目ヲ納メ爾來繼續シテ維新後ニ至リシカ明治八年
 廢稅トナレリ然ルニ全十一年ヨリ更ニ營業稅トシテ
 金十五圓ツ、ヲ納メシカ全十八年ヨリ豊岡開成社士族
 ノ加結社本村ニ於テ鮭魚放流試驗ノ為メ本川請負川ノ
 允許ヲ得シヨリ再ヒ免稅トナレリ

豊岡豊岡

全本町 全寺町

舊藩時代ヨリ運上トシテ鯉網銀廿五匁中目網鯉網ト
 網トノ聞目銀廿匁小雜喉網銀十五匁ヲ納メ維新後尚
 續ヒテ其額ヲ納メシカ明治六年ニ至リ廢稅トナリタ

六地藏村

舊藩時代ヨリ漁業運上トシテ年々鯉網ニ銀廿五匁中
 目網ニ廿匁延網ニ三匁ヲ納メ維新後廢稅トナリタルト
 豊田町ニ全シ

船町村

舊藩時代ヨリ漁業運上トシテ年々玄米三石六斗ヲ納
 メ其後改メテ玄米一石二斗トナリシカ維新後廢稅ト
 ナレリ

宮島村

舊藩時代ヨリ漁業運上トシテ年々中目網銀二十匁ヲ
 納メシカ維新後廢稅トナリタルト豊田町ニ全シ
 野上村

舊藩時代ヨリ漢業鑑札ヲ受ケ運上トシテ年々米六升
宛ヲ納メシカ維新後廢税トナリタルト豊田町ニ全シ
一日市村

舊藩時代ヨリ運上トシテ年々大目網二十五匁中目網
二十目延繩五匁四ツ張銀十匁宛ヲ納メシカ維新後廢
税トナリタルト豊田町ニ全シ

赤石村

維新前ヨリ運上トシテ年々玄米一石三斗ヲ久美濱代
官所へ納メ維新後尚其額ヲ納メシカ明治六年ニ至リ
廢税トナレリ

上山村

維新前ヨリ川役トシテ年々米六斗ヲ久美濱代官所へ
納メシカ維新後廢税トナリタルト豊田町ニ全シ

今津村

維新前ヨリ川役トシテ年々米四斗ヲ久美濱代官所へ
納メシカ維新後廢税トナリタルト豊田町ニ全シ

戸島村

維新前ヨリ川役トシテ年々米五斗ヲ納メ維新後廢税
トナリタルト豊田町ニ全シ

湯島村

維新前ヨリ川役トシテ年々玄米二斗五升ヲ久美濱代
官所へ納メシカ維新後廢税トナリタルト豊田町ニ全
シ

桃島村

維新前ヨリ川役トシテ年々玄米八斗ヲ久美濱代官所
へ納メシカ維新後廢税トナリタルト豊田町ニ全シ

明治十七年ヨリ官有沼池ヲ拜借シ其料トシテ年々金二圓四十錢ヲ納ム

樂々浦村

維新前ヨリ川役トシテ玄米九斗ヲ久美濱代官所へ納メシカ明治六年ニ至リ廢稅トナリ全八年改租ノ際ヨリ本村沼ハ民有地第一種ニ編入セラレ池沼稅トシテ金十九圓二十四錢八厘全十年ヨリ十六圓四錢ヲ納メ其他ニハ別ニ納稅セズシテ漢業セシカ明治九年頃ヨリ隣村飯谷村ト爭論ヲ生シ全十年三月ニ至リ遂ニ官有地へ編入セラレ而シテ漢業ハ舊慣ニ從ヒ本村ノ專漢ヲ許サレ漢業稅トシテ金三圓五十五錢三厘ヲ納ムルトナレリ

小島村

維新前ヨリ川役トシテ米一石八斗ヲ久美濱代官所へ納メシカ維新後廢稅トナリタルト豊田町ニ全シ氣比村字絹卷内川網引場ヲ借受ケ借受証ハ参考書城崎郡第七号ニ掲載ス其料トシテ古來年々錢二貫文宛ヲ全村ニ納メ明治四年ヨリ金二歩宛ヲ納メシカ全六年ニ至リテ廢セリ

氣比村

維新前ヨリ川役トシテ玄米一石三斗ヲ納メシカ維新後廢稅トナリタルト豊田町ニ全シ

第三項 其他ニ關スル事

大磯村

舊領主京極氏ノ時代ニ談領主ノ遊漢ニ出ル氏ハ其日鮭引網漢業ヲ禁シ御用網ト稱シ本村漢者ニ捕鮭セシメ其慰勞トシテ清酒二升豆腐八挺ヲ給シ尚捕獲鮭數

多クニヨリ其幾分ヲ給ス當時士族ノ遊漁ニ出ル件モ
全前ナリト雖氏漁業者ハ其營業ヲ止ムルナシ
宮島村

豊岡本町裏ト俗ニ御堀ハ舊豊岡藩主遊漁ノ為ノ特ニ禁
漁場トナセシヲ以テ他ヨリ入漁スルヲ得ザリシガ維
新後廢セリ

第二款 規約及慣例
第一項 保護ニ関スル事

大磯村

漁期 鮭魚漁期ハ舊領主ニ於テ秋土用曆十日
前ヨリ冬至迄ト定メ爾來其規ヲ繼續履行セシカ
明治十一年ニ至リ十月一日ヨリ十二月廿一日迄
九十一年間トナシ全十五年ニ至リ更ニ八月十五日ヨリ十二月
三十一日迄百三十九日間ト改メリ但當時鮭軍設置
及水流請負川ノ件本廳へ出願ノ際共ニ開申ヲ為シ
許可ヲ受ケタルモノナリ第一書ハ参考書掲載ス

漁業 明治十六年十一月圓山川沿村即チ本村以北七
ヶ村漁者漁業保護トシテ九ヶ条ノ約束ヲ結ヘリ

書ハ参考書掲載ス
第三号ニ掲載ス

船町村

豊岡水町ノ堤元御堀ニ於テハ維新前ニ在リテ十月第
ニノ夜ノ日曆ヲ以テ漁業始メトナシタルヨリ

赤石村 上山村 戸島村 桃島村

漁業 明治十六年十一月漁業保護ノ約束ヲナシタル

ト大磯村ニ全シ

今津村

漁期 鮎ハ本村地先ノ上流ニ装置ス其期毎年八月ヨ

リ翌年五月迄トシ其餘ハ之ヲ徹スルノ例ナリシカ

現今ハ廢セリ

漁業 明治十六年十一月漁業保護ノ約束ヲナシタル

ト大磯村ニ全シ

湯島村

漁具 手操網ハ往古ヨリ桃島村字沖島尻及本村字全

所岸ニ於テ曳クトヲ許セシカ明治十一年頃他ノ漁

者ノ妨害ヲナス等ノ事由ニヨリ漁業仲間ヨリ差止

メ同十四年頃ヨリ申合ヲナシテ遂ニ之ヲ廢セリ

漁業 明治十六年十一月漁業保護ノ約束ヲナシタル

ト大磯村ニ全シ

樂々浦村

漁具 六艘ト稱スル大網アリ明治元年頃迄ハ網數二

疊アリテ十二艘ノ漁船ヲ以テ從事セシカ該漁業ハ

魚ヲ駈逐シ他ノ漁業ヲ妨害スト云ヲ以テ明治八年

頃漁者仲間ヨリ之ヲ差止メリ

漁法 従前ハ夜中夕ノリ網漁具ヲ装置スルトヲ許ス

モ夜明ニ至ラサレハ之ヲ擧クルヲ許サ、リキ是レ

夜陰ニ乘シテ他人ノ網ニ掛リシ魚ヲ盗ミ取ルノ弊
 ヲ防ク為ナリ但該慣行ハ現今ハ廢絶セリ○投網ハ
 互ニ時刻ヲ定メ早ク出テタル者ヲ中央トシ次第ニ
 左右ニ別レテ一列トナリ一齊ニ船ヲ出シ良處ヲ撰
 テ網ヲ投スルノ例ナリ
 漁業 明治十六年十一月漁業保護ノ約束ヲナシタル
 一 大磯村ニ全シ

第二項 漁業ニ関スル事

第一節 漁權

佐野村 九日重町村 九日重町村 妙樂寺村
 南氣多郡境ヨリ北瀬戸村迄凡五里ノ間ハ沿川漁村ト
 入會漁場トス
 大磯村

本川流域入會ノ一ハ佐野村ニ全シ又本村字宮ノ井戸
 ヲリ北豊岡新町字安樂寺井戸迄ノ間ハ罩裏ト稱シ本
 村專漁場ニシテ明治十六年沿村漁者ト該場ヲ移サ、
 ル一ヲ規約セリ現約書ハ参考城崎郡第三号ニ掲載ス

豊岡豊岡 全本町 全寺町
 南ハ氣多郡伏村ヨリ北本郡上山村迄二里十九町ハ沿
 川漁村ト入會漁場トス

六地藏村 宮島村
 南ノ方氣多郡松岡村ヨリ下流ヲ一般入會漁場トナス
 一 赤石村ニ全シ

船町村
 舊藩時代ニハ豊岡本町字御堀ハ本村ノ專漁場ニシテ
 曆十月第二ノ亥子三川入始トシテ此處ニ於テ鮒ヲ

漢シ領主京極氏ニ献シ始メテ其御堀内ニ漢業ニ着手シ固ヨリ他ノ漢者ハ入漢ヲ禁セシ處ナリシカ維新後廢絶シ目今ハ氣多郡松岡村以下一般入會漢場トナリタルト赤石村ニ全シ

野上村

本村ハ蠟漢業ヲナスモノニシテ從來本川各處ニ就テ採取スルノミ

一日市村

本村漢場ハ往古ヨリ南佐野村ヨリ北ニ見村迄トナレシモ維新後ハ氣多郡松岡村ヨリ下流一体入會トナレ

赤石村

南ノ方氣多郡松岡村ヨリ北ノ方本郡津居山村ニ至ル

六里三十町ノ間ハ沿川漢村トノ入會ナリ又本村字美須ノ沼ハ本村ノ專漢場ニシテ他村漢夫ノ入漢ヲ許サス

上山村

本川流域内ハ沿岸各村ノ入會漢場トス

今津村

本村字立谷ヨリ北瀬戸村ニ至ル一里ノ間ハ沿川各村ノ入會漢場トス

黒鯛鰻等ノ漢場ハ樂々浦村ノ沼口字風早ニシテ海ノ凡一湯島樂々浦及本村トノ入會漢場ニシテ南北二十

町乃至一里幅一町乃至二町ノ間トス

蛤漢場ハ字風早ニシテ河口ヨリ凡一里ニアリ南北三町幅一町半ニシテ戸島樂々浦湯島挑島及本村トノ入

會トス

鯿魚鯿其他諸漁場ハ本川一般ノ入會トス

戸島村

南一日市村ヨリ北津居山村ニ至ル凡三里ノ間ハ沿川

各村トノ入會漁場トス

蛤漁場ハ字風早ノ沖合ニシテ樂々浦挑島湯島今津及

本村トノ入會漁場トス

湯島村

黒鯛及鰻蛤等ノ漁場ハ今津村ニ全シ

其他ノ漁場ハ南一日市村ヨリ北津居山村マテ凡三里

ノ間ニシテ沿川各村トノ入會ナリ

桃島村

本村字坂沼池ハ古来本村ノ専漁場ニシテ明治八年ヨ

リ官有トナリシカ全十七年ヨリ今井万三郎外三名ノ

モノ之ヲ拜借シ爾来全人ノ専漁場トナレリ詳細ハ参

郡第六号ニ掲載ス

本流筋ハ沿岸各漁村ノ入會漁場ナリ

蛤漁場ハ今津村ニ全シ

樂々浦村

本村ノ沼内字ニ「ヒ」ヨリ字風早口ニイタルノ間面積二

十五町余ハ本村ノ専有漁場ナリシカ明治十年ヨリ官

有地ハ編入セラレ爾後之ヲ拜借シテ尚本村ノ専漁場

トナセリ専漁場ノ任在参考書城

蠣漁場ハ本村沼内字犬ハ「イ」ノ前ヨリ字風早口迄ニシ

テ本村ノ専漁場トス

鯿魚及鯿漁場ハ南豊岡町裏ヨリ北氣比村字絹巻ニ至

小島村

マテ沿岸各漁村ノ入會漁場トス郡入會ノ一ノ参考城崎

鰯魚ハセグズ鰯等ノ漁場ハ氣比村字洲崎ヨリ全村字
風早ニ至ルノ間ニシテ此内ノ漁場ニ付樂々浦村ト約

束ヲナシ入會漁業ヲナス郡約束書ハ参考書城崎内川網
引漁場ハ氣比村字絹卷地先ヲ全村ヨリ借受ケ使用ス

氣比村

投網漁場ハ樂々浦村字風早ヨリ本村字絹卷迄ノ間ニ
シテ南北二十五町幅四町トス

第二節 仲間加入ノ仕来

大磯村

鮭漁業ニハ従前鮭株十九株ト定メ更ニ増加ヲ許サ

リシガ明治十三年増株ノ一ニ付村内仲間外ノ者ト紛
紘ヲ生シ遂ニ加入金二十圓ト定メ株數四十株ト改メ
タリ

六地藏村 宮島村 赤石村

本村内ノモノ新ニ漁業ヲ営シトスル片ハ唯口頭ヲ以
テ依頼スルニ過キス

船町村

往古ハ本村ニハ漁者株ニ戸羊株ノモノ十二戸アリ若
シ之ニ仲間入ヲナサントスル片ハ株主ノ決議ニヨリ
玄米六升宛ヲ出サシメテ之ヲ許セシカ維新後廢セリ

第三節 他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

六地藏村 宮島村 一日市村

播磨丹波ノ漁者屢々本川幹支流ニ来リ鰻ヲ釣漁スル

トアリ然レ氏別ニ其手續ナシ

赤石村

往々播磨丹波ノ漁者来リ鰻ヲ釣漁スルトアリ本村内ノ沼池ハ本村ノ専漁場タルヲ以テ入漁ヲ得ス然リト雖氏幹流ノ如キハ諸村ノ漁者入會漁場ナレハ敢テ之ヲ咎ムルモノナシ

第四節 販賣ノ仕方

佐野村 九日市上町 九日市下町 妙樂寺村 大磯村

捕漁セシ魚類ハ都テ豊岡市場へ運輸シ或ハ直ニ需用者ニ即金ヲ以テ賣渡ス又時トシテハ塩藏トナシ他方へ販賣スルトアリ但シ市場賣ノキハ問屋口錢凡一割トス

六地藏村 船町 宮島村 一日市村

捕漁セシ魚類ハ概子豊岡市場ニ輸出ス問屋口錢ハ一分七厘ニシテ賣リ残り八分三厘ヲ收入スルノ例ナリ又都合ニヨリ漁者自ラ小賣スルトアリ

野上村

蜆ハ毎日正午迄ニ取歸リ午後近町村ニ小賣ヲナス

赤石村

捕漁セシ魚類ハ豊岡仲町中買社ニ輸出シテ競賣シ十錢ニ付歩賣ハ錢七厘ヲ收入ス

上山村

捕漁セシ魚類ハ直ニ豊岡市場ニ里ニ輸送シ即金ヲ以テ取引ス問屋口錢ハ一割トス又直ニ湯島村里へ運送スルトアリ皆即金取引ヲ以テ小賣商へ賣渡ス

今津村

捕漁セシ魚類ハ直ニ湯島村商人ニ競賣シ即金ヲ以テ取引ス

戸島村 桃島村 樂々浦村

捕漁セシ魚介ハ直ニ湯島村町ノ商人或ハ豊岡市場里ニ輸送シ販賣ス湯島商人ニ賣ル者ハ即金或ハ數日ノ約束ヲ以テ取引シ豊岡市場ニ輸送スルモノハ即金取引ニシテ問屋口錢ハ一割トス

湯島村

捕漁セシ魚類ハ直ニ本村仲買商ニ送致シ即金或ハ月末勘定ヲ以テ取引ス

小島村

捕漁セシ魚ハ直ニ湯島村ニ運輸シ即金ヲ以テ販賣ス時トシテ豊岡市場へ輸送スルトアリ是亦即金ヲ取引

トス但シ此場合ニハ問屋口錢一割トス

氣比村

捕漁セシ魚ハ直ニ豊岡市場四里ニ運輸シ即金ヲ以テ取引ス問屋口錢ハ一割トス但シ時トシテハ湯島村一里程ニ荷出し直ニ小賣スルトアリ

第三項 雑事

大磯村

祝ヒ 鮭魚大漁ノ時ハ出掛リノ漁者ニ聊カ酒肴ヲ與フルノ例ナリ

祭祀禁忌 鮭罟仲間ニ於テ毎年蛭子講ト唱へ漁期ノ

羊ゴロ一同集會シ酒宴ヲ張り翌年ニ係ル一切ノ事項ヲ談話スルノ慣例ナリ○鮭漁業仲間ノ信仰スル

モノハ鮭網觀音此觀音ハ鮭網ノ元祖ニシテ往古鮭漁ヲ觀音ハシハ川中ヨリ光明ヲ發シ

此觀音ヲ上ケテ尾トノ靈現ニヨリ因テ本村妙樂寺村妙
 安置スニシテ從來該漁不漁ナルハ觀音ヘ代參ヲ
 立テ初穂金百足ヲ納メシカ明治十年ノ頃ヨリ初穂
 金十二錢ニ定メタリ又日待ト稱シ徹夜酒ヲ飲ミ種
 々ノ談話ヲスルナリ

雜件 舊領主京極氏ノ時代ニハ鮭漁業仲間ヨリ献上
 鮭ト唱ヘ始メテ捕獲セシ鮭一尾ヲ納メ外ニ勘定方
 免方賄方代官役等ヘ一尾ツ、ヲ贈リシカ廢藩後ハ
 廢セリ然ルニ明治六七年ノ頃ヨリ本村総代及沿川
 村総代其他ヘ各一尾ツ、ヲ贈ルノ例トナレリ

樂々浦村

祭祀禁忌 本村ハ悉皆一向宗ヲ奉ス依テ毎月廿七日
 陰ハ開山ノ忌日ト稱シ一同休漁佛會ヲナス

第三款 犯則違例處分

大磯村

舊豊岡藩時代ニ久美濱代官所管内佐野村漁者入漁セ
 シヨリ其漁具網^蝦ヲ沒收ス
 鮭罩仲間内四名ノモノ明治十五年捕獲ノ魚ヲ藏匿シ
 シルナリ依テ之ヲ除名セリ

舊豊岡藩時代ニハ無免許ノモノ漁業セシハ其漁具
 十ル齒掛ケ網ヲ沒收セリ
 明治十六年沿川漁村同盟セシ規約ヲ違フモノアルハ
 ハ其漁具ヲ取上クルモノトス規約書ハ参考書城
 崎郡第ハ号掲載ス

赤石村 上山村 今津村 戸島村 湯島村 桃島村
 樂々浦村

明治十六年沿川漁村同盟セシ規約ニ違フモノハ其處

鯪 ト云フ佳味ノ時トス而シテ普通多キモノハ三寸五分乃至四寸ノモノトス 上山村調査ニ

鰻魚

孚化後三ヶ月ヲ經過シテ一寸五分 此量凡ニ 其年ノ大
廿五寸 此量凡ニ 二年目ニシテ八寸乃至一尺トナル 此量
凡百二十目乃至之ヲ鰻ト云フ三年目ニ至リ一尺二三寸 此量
凡百四十トナル普通多キモノハ鰻魚ナリ

鰺

孚化後一ヶ年ヲ經過シ全ク成長ス其長二寸余トス 野佐
村以下全シヨ
ハゼグス
其年ノ大廿三寸余 此量 二年目ニシテ三寸五分乃至四寸トナル 此量凡ハ九之ヲ 最モ佳美ノ時トス普通多キ

鰯

ハ當歳ノモノトス 今津村
孚化後一ヶ年ヲ經過シテ全ク成長ス其年ノ長廿九二寸トス

鯰

孚化後二月ヲ經過シテ三寸 此量凡ニ 三年ニシテ七寸
此量凡ニ三年ニシテ一尺乃至一尺二三寸トナル 此量
十目乃至普通多キハ七八寸ノモノニシテ一尺以上ノ
モノヲ佳味ノモノトス

鰻

成長ノ順序詳ナラスト雖氏普通多キモノハ一尺二三寸
此量五ニシテ最大ナルモノハ二尺二寸 此量 二及
ガ其佳味ナルモノハ一尺五六寸 此量 七目ノモノトス

兵庫縣

リ但三種アリテ其上等ナルモノハ青ハ正色中等ハ真
黒茶下等ハ蟹喰ナリ黒色ナリ佐野村調

黒鯛

字化後凡廿日ヲ経テ一寸乃至一寸五分此量ニ及乃ト
ナリ其年中ニ凡二三寸此量六トナル之ヲヘイズト云
フ二年ニシテ凡六寸乃至七寸此量二十五及三年ニシテ
九寸乃至一尺トナル之ヲ最モ佳味ノ時トス普通多キ
ハ七八寸ノモノナリ湯島村調

鯨

字化後凡二ヶ月ヲ経過シテ一寸此量凡トナリ其年中
二三寸此量凡二年ニシテ五寸此量凡三年ニシテ七
八寸此量凡八トナル普通多キハ五六寸ノモノニシテ
其長大トナルニ随ヒ味ハ美ヲ増ス桃島村調

鯉

字化後二ヶ月ヲ経過シ一寸五分此量凡トナリ其年中
二三寸五分此量凡二年ニシテ七寸此量凡五年ニシ
テ一尺内外此量百六十トナル以後成長シ大ナルモ
ノハ二尺乃至二尺三四寸此量三百五十トナルアリ普
通多キハ二三百目ノモノニシテ其佳味ナルハ三百目
許リノモノナリ桃島村調

鮎

字化後海中ニ生育シ四月頃一寸七八分此量一トナリ
テ川ニ遡リ入り是ヨリ凡六十日ヲ経過シテ四寸余此
七百二十日ヲ経テ六寸此量十トナル最大ナルモノヲ
佳味トス普通多キモノハ五六寸ノモノニシテ其最大
ナルモノハ七寸余ニ及フアリ

鮭

浮化後一ヶ年ヲ経過シ七八寸此量内外三十二ヶ年ニシテ
 一尺二寸此量百トナル其大ナルモノハ二尺七八寸乃
 至三尺迄トス此量二貫五六百之レヲ最モ佳味ノ時ト
 ス普通多キモノハ二尺五寸内外此量一貫二百目トス但
 人工細卵ニ係リタルモノニシテ放流セシ魚ハ稍ヤ小
 ニシテ二尺乃至二尺二寸此量七百目トス大磯村調

鱈

浮化ノ後溪流ヲ游泳シ二ヶ月ヲ経過シテ二寸五分此量
 一トナリ其年中ニ五寸此量九二ヶ年ニシテ七寸此量十
 トナル其佳味ナルハ六七寸ノモノニシテ亦普通多キ
 モノトス鰺々浦村調

小鱸

浮化後一ヶ月経過シテ一寸五分此量四分トナリ其年中
 ニ長サ四寸此量六トナル之ヲ小鱸ト云フ二ヶ年ニシテ八
 九寸乃至一尺二寸此量余三十トナル之ヲ「ゴバ子」ト云フ
 三年ニシテ一尺五寸乃至二尺此量八十トナル之
 ヲ鱸ト云ヒ最モ佳味ノモノトス普通多キモノハ「小鱸」
 子コバノ二種ナリ湯島村調

泥亀

浮化後一ヶ年ヲ経テ量四十五乃至二ヶ年ニシテ七八月
 目三ヶ年ニシテ百三十目トナル最モ大ナルモノハ六
 七百目ニ至ル普通多キモノハ百目内外ニシテ又佳味
 ナルハ三百目内外ノモノトス鰺々時村調

捕魚ノ期節左ノ如シ

第二致 第一項 漁期節

品名	イ	ス	鰯魚	鰯	蛤	ハセグズ	鰯	鰯	鰯
期節	周年	自六月至八月	周年	自五月至九月			自六月至八月	周年	周年
良時季	自三月至五月	七月	七月	七月			七月	自四月至八月	自五月至九月
妙樂寺村									
期節	自四月至八月	七月	自四月至八月				七月		
良時季									
野上村									
期節	自七月至八月	八月	七月				八月		
良時季									
一市市村									
期節	自九月至一月	八月	自五月至九月						
良時季									
上山村									
期節	自七月至九月	八月	自九月至一月						
良時季									
今津村									
期節	自七月至九月	八月	自九月至一月						
良時季									
戸島村									
期節	周年	八月	周年	自十月至二月					
良時季									

系

兵庫

鮭 鮠ハ例年八月ヨリ十二月迄ノ間晴天ニシテ風ナク水
 澄ミタル片深所ニ群集スルヲ以テ引網漁業ヲナスニ好
 キ時期トス之レニ反シテ水濁リタル片ハ鮭罩漁ヲナス
 ニ適ス大磯村以下調査シ○鯉 鮒 鮓ハ二月ヨリ四月迄九月ヨ
 リ十一月迄ノ間南風アリテ暖氣ナル片其巢窟ヲ出テ淺
 所ニ游泳シ又五月ヨリ七月迄ノ間ニ東風或ハ辰巳風吹
 キ雨強ク水増殖スル片ハ産卵ノ夕ノ水田ニ登ルヲ以テ
 捕漁ニ好シ○鮠 魚 鮠 漁ハ適宜風アリテ浪立ツ片ヲ良ト
 ス之レニ反シテ風ナキ片ハ網ノイワ音又ハ網影ニ驚キ
 魚散乱ス○東北風ア方信徐々ト吹ク片ハ捕漁多ク南風
 ノ時ハ魚水底ニ隠レテ出テズト云フ上山村調

第三款 淡 場

圓山川ハ源ヲ朝来郡ニ發シ養父氣多ノ二郡ヲ經過シ氣
 多郡伏村ヨリ本郡佐野村ニ入り北流シテ津居山港ニ至
 テ海ニ注ク延長凡五里余川幅ハ流末ヨリ上凡十五丁即
 小島村ニテ百九十間トス水色ハ南佐野村ヨリ北豊
 岡滋茂町邊迄ハ渾テ清流ナリ然レ氏夏季炎暑ノ候ニ至
 リ降雨少ナキ片ハ海潮遡ル故ニ滋茂町邊ヨリ下流ハ半
 濁流トナル流勢ハ郡内ノ上流ハ緩急相半シ水底ハ概子
 砂石ニノ以下凡五里間ハ概子急流ニシテ水底ハ細砂泥
 砂相混淆ス又船町村字愛宕下ハ深サ凡廿五間海口ハ凡
 一丈餘アリ

附

本川ニ連續シテ沼三ヶ所アリ皆其村々ノ漁場トス

其概況左ノ如シ

赤石村沼 美須沼ト云フ反別二町四反四畝歩アリ

水色羊濁ニメ底ハ泥砂混濁セリ産出スルモハ

重モニ鱒魚トス

桃島村沼 反別六町歩アリ水色清ク底ハ泥十リ重

モニ産スルモノハ鰯魚鰻等トス

樂々浦村沼 反別二十八町五反四畝二歩アリ水色清

ク水底ハ泥十リ重モニ産スルモノハ鰯魚鰻沙魚鱖

黒鯛トス

本川沿村漁場ノ區域左ノ如シ但シ漁獲ノ重ナルモノハ

鮭イヌ、鯉、鰯ニシテ其漁獲ノ盛ナル地方ハ鮭ハ大磯ヨリ

上凡「イヌハ樂々浦流末ヨリ上一里挑島里凡一里赤石里半

四里イヌハ樂々浦流末ヨリ上二里挑島里凡一里赤石里半

トス

佐野村 九日市上町村 九日市下町村 妙樂寺村

鯉、鮪、鯰其他諸魚ノ漁場ハ佐野村字下リ拵ヨリ下ハ津

居山村海口迄ノ間ニ於テ漁ス

大磯村

鮭、罩、渚ハ本村字宮ノ井戸ニ於テシ又引網ニ係ルモノ

ハ南佐野村字下リ拵ヨリ北津居山村海口迄ヲ使用區

域トスト雖氏漁業ノ都合ニヨリ本村字上河原中河原

下河原立野村濱豊田町字石積日撫村小堀船町村愛宕

下等ニ於テシ又時トシテハ氣多郡伏村字伏刻九日市

上ノ町村上長崎九日市下ノ町村深屋河原塩津村濱下

鷲井村字錠口等ニ於テ漁ス右ハ河口ヨリ最遠四里餘

アリ

鯉鮪鯰其他漁場ハ佐野村ニ全シ

豊岡豊岡 全本町 全寺町

諸魚漁場ハ南氣多郡伏村天神社邊ヨリ北本郡上山村
迄二里十九町ノ間トス

六地藏村 船町村 官島村 一日市村 赤石村

南氣多郡柘岡村以北ニ於テ漁ス

野上村

本川各處ノ淺瀬ニ就テ捕貝ス

上山村

鯰ハイハ等ハ南船町村字愛宕山ヨリ北樂々浦字鞍懸迄
河口ヨリ凡一里乃至二里ノ間ニ於テ漁ス

今津村

黒鯛及鰻ハ樂々浦村沼口字風早ニ於テ漁ス

鰻其他ノ諸魚ハ河口ヨリ一里乃至二里ノ間ニ於テ漁

ス

蛤ハ下流字風早ヨリ對岸字石見屋堤ノ間ニ於テ漁ス

蛸ハ本村地先ニ於テ漁ス

戸島村

鰯及鰯ハ本川下流即チ河口ヨリ凡廿町乃至二里ノ間

ニ於テ漁ス

蛤ハ下流風早沖深サ凡ニ尋半ノ處ニ於テ漁ス

湯島村

黒鯛、鰻、蛸、漁場ハ今津村ニ全シ

イハス、鰯、魚、鰯、小鱸ハセグズハ南結村柘葦山麓ヨリ北氣
比村字絹卷ノ沿岸ニ至ル河口ヨリ十町乃至二里ノ間

ニ於テ漁ス

桃島村

蛤ハ本川下流風早ヨリ對岸字助ヶ柘トハ間ニテ渙ス
 談渙場ハ菊屋島ノ下流ニ在ルヲ以テ水流最モ緩ナリ
 深サハ二尋乃至三尋水底ハ細砂ニシテ平坦ナリ
 小鱸イヌ鰯等ハ結村字柘蓆山ヨリ北氣比村字絹卷ニ
 至ル間或ハ本村沼池ニ於テ渙ス此處ハ河口ヨリ廿五
 丁乃至二里ノ間トス
 蛤渙場ハ今津村ニ全シ
 鯉鰯鯰鰻等ノ渙場ハ本村沼池或ハ鯰鰻ハ本村沿岸ノ
 淺所ニ於テ渙ス

樂々浦村

鰯魚及鰯ハ圓山川下流及本村ノ沼池ニ於テ渙ス談渙
 場ハ河口ヨリ九一里ナリ

小島村

鰯ハゼグズアジ等ハ氣比村字洲崎ヨリ上全村字風早
 前迄河口ヨリ一里以内ノ間ニ於テ渙ス

氣比村

投網渙場ハ南樂々浦村字風早ヨリ本村字絹卷迄ニシ
 テ河口ヨリ二十五町乃至一里ノ間トス

第四款 入會漁船ノ數

佐野村

一 諸魚漁場

漁船總數 百六十二艘

明治十九年調

内

氣多郡内漁船

八艘

九日市上町村弓下流沿川漁村漁船

百五十三艘

本村漁船

一艘

上山村

一 鰯魚ノ漁場

漁船總數 十二艘 但一人一艘

明治十九年調

内

一日市村漁船

五艘

赤石村漁船
戸島村漁船
水村漁船

二艘
三艘
二艘

今津村

一黒鯛漁場

漁船総數

五艘 一但一人兼一艘

明治十九年調

内

湯島村漁船

四艘

水村漁船

一艘

當漁場ハ明治五年頃ヨリ漁業ヲ始メ遂ニ本文ノ數

トナレリ

一鰯魚及其他漁場

漁船総數

五十七艘 但一艘一人兼一艘 一人明治十九年調

内

上山村漁船

二艘

戸島村漁船

二十艘

湯島村漁船

十五艘

水村漁船

二十艘

一蛤漁場

漁船総數

十五艘

明治十九年調

内

戸島村漁船

二艘

樂々浦村漁船

五艘

湯島村漁船

三艘

桃島村漁船

二艘

水村漁船

三艘

當漁場ハ明治五六年頃ハ凡二十艘許モアリシカ其
後生産減少スルニ隨ヒ漁船凡七艘許ヲ減セシカ水
年産貝増殖シ遂ニ本文ノ數トナレリ

一 蜆 漁場

漁船總數

五艘 一但一人衆

明治十九年調

内

戸島村 漁船

三艘

本村 漁船

二艘

戸島村

一 鰯魚 鰯 漁場

漁船總數

三十六艘 一但一人衆

明治十九年調

内

樂々浦村 漁船

二十艘

挑島村 漁船

二艘

本村 漁船

十四艘

當漁場ハ明治元年頃迄ハ僅ニ二十艘位ナリシカ爾
後年々増加シ遂ニ本文ノ數トナレリ

挑島村

一 鰻 漁場

漁船總數

六艘 一但一人衆

明治十九年調

内

挑島村 漁船

五艘

本村 漁船

一艘

當漁場ハ明治五年頃迄ハ只挑島村ノ漁船三艘ノミ
ナリシカ以後本文ノ數トナレリ

一 ハセグズ 漁場

漁船總數 十四艘一組一人一艘 明治十九年調

内

樂々浦村漁船 九艘

水村漁船 五艘

當漁場ハ明治四年頃迄ハ凡十七艘アリ全九年頃ヨリ該魚漸ク減少ノ為ノ一時漁船絶タリシカ再ヒ増加シテ遂ニ本文ノ數トナレリ

一「イ」ス 鰯魚漁場

漁船總數 十二艘二組一人一艘 明治十九年調

内

今津村漁船 三艘

樂々浦村漁船 七艘

水村漁船 二艘

當漁場ハ明治三年頃マテハ八九艘ナリシカ年々増減ノ未遂ニ本文ノ數トナレリ

一小 鱸鰯魚漁場

漁船總數 十二艘二組一人一艘 明治十九年調

内

樂々浦村漁船 七艘

水村漁船 五艘

當漁場ハ維新以前ハ凡五艘許ナリシカ以後増加シテ本文ノ數トナレリ

樂々浦村

一 鰯魚及鰯漁場

漁船總數 廿四艘二組一人一艘 明治十九年調

内

今津村漁船

三艘

湯島村漁船

二艘

本村漁船

十九艘

當漁場ハ維新前ニアリテハ凡二十艘ナリシカ明治

元年頃ハ凡十艘トナリ全四年頃十五艘トナリ其後

又凡八艘トナリシカ又増シテ遂ニ本文ノ數トナレ

リ

小島村

一鯿魚「ハセグズ」漁場

漁船總數 三十艘又但ハ一ニ艘人一人明治十九年調

内

樂々浦村漁船

七艘

湯島村漁船

三艘

桃島村漁船

八艘

本村漁船

十二艘

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具現數左ノ如シ

漁具名	網一色十目網	網一色十目網	網一色十目網	網一色十目網	網一色十目網	網一色十目網	網一色十目網	網一色十目網	網一色十目網
村野佐	二								
村桑敷									
村市九上日	六								
村市九下日	二								
村磯大	二								
町豐豐	二								
町本同	一								
町寺同	一								
村磯地六	一								
村町部	六								
村島宮	二								
村上野									
村市日一	五								
村石赤									
村山上	四								
村津今	二								
村島戸	三八								
村島湯	七								
村島桃	一七								
村瀬樂	三九								
村島小									
村比氣	五								
合計	二四三								

兵庫縣

其法ハ岸ノ方ニ向ハシテ之ヲ沈メ二本ノ竹ヲ以テ
 網口ノ両方又一本ノ竹ヲ以テ其後部ヲ支ヘ置ケハ
 「イ」ス魚網中ニ入り再ヒ出ル「能」ハサルナリ即チ之
 ヲ引揚ケ捕獲ス大磯村調
 鳴子網 岸ニ沿フテ装置スルモノニシテ昼間川中ニ
 網ヲ平面ニ敷キ六ヶ處ニ小竹ヲ挿シテ之ヲ止メ而
 シテ其中心ニ稗又ハ稻穂等ヲ置キ以テ魚ヲ誘フナ
 リ又網ノ六ヶ處即チ小竹ナリ止メ引繩ヲ附シ一束
 トナシ又中心餌料ノ處ニ脉繩トテ一線ノ繩ヲ著ケ
 テ引繩ト共ニ延テ陸上ニ引キ置クナリ夜ニ入レハ
 漁夫脉繩ヲ取り以テ魚ノ来ルヲ待ツ故ニ魚来ル片
 ハ即チ其脉繩ニ觸レ直ニ漁夫ノ手ニ感ス爰ニ於テ
 急ニ引繩ヲ引キ之ヲ揚ケ捕獲スルナリ大磯村調

撫網 鮪漁ニ全シ

四張網 夜陰漁船一艘ニ一人打衆リ魚道ヲ視察シ掉
 ヲ川底ニ差シ之ニ船ヲ結ヒ止メ而シテ該網ノ装置
 ニ著手ス其順序ハ竹ニ交叉シテ該網ノ四隅ニ結ヒ
 付ク而シテ交叉ノ處ニ一本ノ竹竿ヲ繫キ又一條ノ
 繩ヲ竿頭ニ繫キ其端ヲ共ニ船ニ取り凡ニ時毎ニ之
 ヲ引キ揚ケ捕フ但之ヲ揚クルニハ竿頭ノ繩ヲ執リ
 両足ヲ船舷ニ掛ケ努力シテ之ヲ引クナリ今津村調
 獄ブシ 稗ヲ熬リテ泥土ニ粘リ合セ之ヲ該器中ニ入
 レテ川中ニ沈メ置ク片ハ「イ」スハ其餌ヲ尋ネテ遂ニ
 蓋ヲ推シテ其中ニ入り再ヒ出ル「能」ハス之ヲ引キ
 揚ケ捕獲スルナリ上山村調
 竹籬 鮪漁ニ全シ

鮫漁

打網 目責網ト云フ使用法鰯魚漁ニ全シ
四張網 「イス漁ニ全シ

沙魚漁

拵繩 每船三四籠ヲ積載シ二人衆組ミ出漁ス餌料ハ

蝦又ハ蚯蚓トス糸端ハ竹竿ニ結ミ川中ニ適宜ニ立

置キ後午一二時間ヲ経過シテ其一端ヨリ順次引キ

揚クルナリ湯島村調

蛤漁

蛤突 蛤ノ棲息セシケ處ヲ認メ談器ヲ以テ之ヲ狹ミ

捕獲スルモノトス戸島ヨリ調

鰯魚

打網 鰯魚漁ニ全シ

蠣漁

蠣取 談器ヲ以テ水中ヲ搜クリ觸レハ即チ之ヲ挟ミ

取り揚クルナリ樂々浦村調

鯽魚

打網 目責網ト云フ使用法鰯魚漁ニ全シ

鯰魚

打網 中目網ト云フ鰯魚漁ニ全シ

灯燈網 四ツ張網 鳴子網 イス漁ニ全シ

大砲網 漁船ニ一人ノ漁者打栗リ舳床ニ立チ右手ニ

網ノ柄ヲ持チ右手ニテ棹シテ船ヲ遣リ水藻ノ處ニ

到リ網ヲ藻中ニ入レ右手ノ棹ヲ網ノ上ヨリ入レテ

網中ヲ攪廻ス魚若シ網中ニ在テハ必ス免カレント

シテ網ニ觸ル、ナリ漁夫之ヲ察シ其觸レタル部分

ノ網吊リ糸ヲ弛ルノテ網圍ヲ膨脹セシメ魚ヲシテ
此ニ潜マシメ以テ之ヲ抄ヒ捕フルモノトス 桃島ニ村

拵繩 漁船ニ二人ノ漁者打衆リ三籠乃至五籠ノ拵繩

ヲ備ヘ夕暮ニ蚯蚓或ハ鮠鰻魚ヲ餌トナシテ川中ニ

配置シ翌朝ニ至リ引揚ケ捕獲スルモノトス 大磯村ニ

投繩 ルヨ 竹頭ニ設繩ヲ付シ其竹ハ川岸ニ指止メ而シテ

水中ニ投入ル但シ餌ハ春ハ蚯蚓秋ハ小蛙ヲ用ユ 妙

寺村調査 ニヨル

竹籬 設器ハ多ク夏日ニ用ユルモノニシテ器中ニ蚕

蛹等ヲ入レテ餌トナシ水底ニ沈メ置キ朝ト夕トニ

揚ケ捕獲スルモノトス 大磯村調査ニヨル

鰻魚

拵繩 竹籬 投繩 鮠魚ニ全シ

黒鯛魚

打網 中日網ト云フ鰻魚魚ニ全シ

釣 夜陰又ハ濁水ノ片漁船一艘ニ一人衆組ニ深處ニ

臨ミ釣ヲ垂レ漁ス餌料ハ蝦トス 湯島村調査ニヨル

鮎魚

打網 目責網ト云フ使用法鰻魚魚ニ全シ

灯燈網 鳴子網 拭グシ 四ツ張網 イス魚ニ全シ

大砲網 竹籬 鮠魚ニ全シ

撫網 洪水ノ片陸地或ハ船中ニ在テ魚ノ流水ニ壓サ

レナカラ強テ遡ラントスル處ヲ設具ヲ以テ之ヲ迎

ヘテ抄ヒ捕フ 大磯村調査ニヨル

待小手網 出水ノ片魚道ヲ察シ上流ニ向テ水中ニ沈

メ漁夫其柄ヲ持チテ来ルヲ待チ捕獲スルモノトス

九日市下ノ町
村調査ニヨル

兩得網 談漁具ハ川岸ニ沿フテ用フルモノナリ水能

ク澄清シタル片水中ニ沈メ置キ漁夫一人鵜芋ヲ以

テ魚ヲ駈リ網中ニ寄セ之ヲ揚ケ捕獲スルモノナリ

九日市上ノ町
村調査ニヨル

小突網 鱒魚ノ所在ヲ察シ談網ヲ入レ突竹ヲ以テ一

方ヨリ水中ヲ攪拌シテ魚ヲ驅リ入レ捕獲スルモノ

トス
九日市上ノ町
村調査ニヨル

鯉魚

打網 荒目網ト云フ使用法鰯魚漁ニ全シ

灯燈網 鳴子網 獄グシ イス漁ニ全シ

大砲網 鯰魚ニ全シ

曳網 鯉魚ヲ圍ミ而シテ漁船ニ三艘ニテ網圍外ヨリ竹竿

等ニテ水面ヲ叩キ之ヲ威シ遂ニ網ヲ曳揚ケ捕獲ス

ルナリ
大磯村
調査ニヨル

待小手網 鱒魚ニ全シ

猪 鯉魚ニ全シ

蝦魚

大夕毛網 漁期十一月末ヨリ翌年三月頃迄ノ間「フシ

柴ノ束子ヲ水中ニ沈メ浮標ク付毎朝一回之ヲ引揚

クルナリ其順序ハ「フシ」ヲ渚迄引キ寄せ「フシ」ノ下ニ

談網ヲ入レ之ヲ振動セシム若シ「フシ」中ニ魚類潜伏

シ居レハ其振動ニヨリテ皆網中ニ落ツルニヨリ即

鮎魚

千之ヲ捕フルナリ 桃島村調

打網 中目網ト云フ使用法鮎魚漁ニ全シ

投ケ網 本村鮎漁ハ主トシテ之ヲ用ユ漁期七月乃至

九月ニシテ水清ク且ツ浅キ處ニ於テ其群来ヲ認テ

一直線或ハ孤線ニ投ケ込ミテ之ヲ圍ミ而シテ下流

ヨリ水ヲ攪回シテ之ヲ驅逐シ以テ網目頭ヲ差サシ

ムルナリ 大磯村調

撫網 鮎漁ニ全シ

鯨魚

曳網 漁船ニ艘ニ分載シ各三人乗ニテ川ノ中流ヨリ

左右ニ分レ岸ノ向テ網ヲ投入ス岸ニハ數人ノ漁者

之ヲ待テ其着岸スルヤ直ニ其手網ヲ渡シ續ヒテ岸

ニ於テ之ヲ繰揚ケ捕獲スルナリ 小島村調

雜魚漁

四張網 「イ」ス漁ニ全シ

大夕毛網 蝦漁ニ全シ

鮭魚

曳網 漁船一艘ニ該網一疊ヲ積載シ衆組三人ニテ漕

キ出ス内二人ハ船ノ前後ニ居リテ櫂ヲ取り以テ下

流ヨリ上流ニ半月形ニ漕キ行ク又一人ハ中間ニ居

テ網ヲ川中へ投入ス但網ノ一方ニアル引綱ハ二人

ノ漁夫川岸ニ於テ之ヲ持テリ船ハ遂ニ他ノ岸ニ著

シ直ニ上陸シ豫テ待タル一人ノ漁夫ト共ニ一方ノ

引綱ヲ取り雙方一齊ニ之ヲ曳キ繰揚クルニ隨ヒ左

右ノ漁夫漸次一處ニ相近ツク尚曳テ網ニ至レハ浮

子肩トイワ肩ト一人宛相分レテ操リ揚クルト既ニ
 九分許リニモ至レハ急ニイワ肩ヲ操リ揚ケテ恰モ
 袋様ノ如クナシテ其魚ヲ捕獲シ其儘ニ陸上ニ投ケ
 上ケ小棒ヲ以テ其頭ヲ撃キ以テ之ヲ殺スモノトス
 大磯村調
 査ニヨル
 罩 談漁具ハ川ヲ横断シテ凡三尺毎ニ抗ヲ竝列シ以
 テ談網ノ下ニ貫キタル大敷繩ヲ抗ノ根ニ結束ス但
 網ニ纏フ蘆芥ヲ除クノ便利ヲ為シ輕ク結ビ付ケテ
 談網ヲ容易ク上下セシム又談網ノ上ニ付シタル拵
 繩ヲ取り水上凡三尺許ノ處ニ結ビ付ク但シ結ビ方
 ハ蘆芥流来ノ際ニハ必ス其網ニ集マリ為シ損害
 ヲ来ス丁アルニヨリ容易ニ解クル為シ只繩端ヲ他
 ノ繩間ニ挿ミ置クニ止マルナリ又深處ニハ常ニ通

行ノ船アルニヨリ返シ網ヲ附シテ之レニ便ス之ヲ
 船水戸ト云フ又中央ニハ魚水戸ト稱シ左右抗ノ間
 凡四尺トナシ此處ニハ罩網ヲ設ケス昼間ハ落シ網
 ヲ以テ塞キ夜ニ入レハ之ヲ去リ代ルニ夕モ網ヲ裝
 置シ漁船一艘ニ漁夫ニ名乗組ニ其側ニ停泊シ内一
 名ツ、交番ニ脈繩ヲ持テ魚ノ網中ニ入ルヲ按察
 ス若シ網ニ入りタルハ魚即チ脈繩ニ觸ルヲ以
 テ忽チ漁夫ノ手心ニ感スルニヨリ直ニ落シ網ヲ魚
 水戸ニ塞キ而シテ夕モ網ヲ揚ケ之ヲ捕獲スルモノト
 ス抑罩網ヲ超越シテ上流ニ遡ラントスルハ夜間十
 リ故ニ罩漁ハ黄昏ヨリ曉迄ヲ良トス然レ氏雨降水
 濁ノトキハ昼間ト雖氏著手スル丁アリ大磯村調
 査ニヨル
 打網 荒目網ト云フ漁船ニ漁夫一名打衆リ時衆リトテ

稱シ別ニ水主一人船ノ艦ニ居リ而シテ反對ニ進行
 ヲ用エルトアリ
 シ其居處ヲ認メ即チ該網ヲ投シ直ニ手繩ヲ繰リ取
 リ網ノ龍頭ニ至リ右手ヲ逆ニナシテ之ヲ持チ以テ
 網ヲ水中ニ昇降シナカラ操揚捕獲スルモノトス
 大磯村ヨル查

四張網 「イス漁」ニ全シ

齒掛網 該具ハ深サ一尋乃至一尋半ノ處ニ川ヲ横断
 シテ装置シ浮子肩ニ付シタル一方ノ手繩ヲ川岸又
 ハ杭等ニ縮繫シ置クナリ然レバハ鮭魚ハ下流ヨリ
 激シク遡ルモノナルヲ以テ該網ニ衝突スルニ隨ツ
 テ縮繫ノ手繩ハ即チ解ケ落ケテ其後面ニ流レ寄り
 鮭魚ハ前後ニ網ヲ受ケ狼狽逃道ヲ失ヒ遂ニ其網中
 ニ縛著シ去ルナ能ハス此ニ於テ之ヲ捕獲スルモノ

トス 九日市上ノ町
 村調査ニヨル

藉 魚ノ安息シタル處ヲ伺ヒ船中ヨリ之ヲ突捕フモ

ノトス 大磯村調
 査ニヨル

磯漁

夕、リ網 夕陽ノ項ヨリ流ニ向テ二本ノ竿ヲ立テ其
 間ニ該網ヲ張り付ケ置ク然レバハ該魚ハ相列ナリ
 テ溯リ遂ニ其目ニ差ヌナリ故ニ一名差網トモ云フ
 樂々浦村調
 査ニヨル

蜆漁

搔夕モ網 川ノ淺瀬ヲ量リ水底ノ沙ト共ニ之ヲ抄ヒ
 直ニ水中ニ於テ之ヲ淘汰シテ其沙ヲ去リ貝ヲ捕リ
 揚ルナリ 今津村調
 査ニヨル

泥亀漁

投ケ繩 鯰漁ニ全シ

索リ藉 設器ヲ以テ泥中ヲ突キ探リテ其有無ヲ察シ
若シ潜伏スレハ手カラヲ搦捕スルナリ
妙ニ築ヨル村調

第七款 有害漁法

前搔俗具ハ篠竹ヲ以テ箕形ニ製シ竹ノ長柄ヲ付シ晩秋
ヨリ初春迄ノ間本川ニ接スル溝渠等ヲ攪曲シテ鮚鯉鯰
等ノ魚兒ヲ捕フ大磯村以下調査ニ○穴伏漬ト唱ヘ川入江ノ
姿ヲナシテ最モ浅キ處ヲ撰ミ廣廿一坪乃至二坪ト定メ
深廿九三四尺ヲ掘リ周圍ニ小堤ヲ築キ一方ヲ圍テ魚道
ニ充テ堤内ニハ柴箆或ハ藁等ヲ投入シテ放置スルト凡
三四十日間然ル片ハ魚兒皆此處ニ来リテ安息スルニヨ
リ即チ水ヲ浚ヘ其魚兒ヲ捕盡ス○醉セ川ト稱シ多クハ
秋季ニ於テ石灰ヲ投シ或ハ煙草莖山椒皮等ノ煎汁ヲ注
入シ捕魚スルトアリ魚兒ハ昏醉シテ遂ニ死ス○堰捕ト
稱シ本川ニ通スル渚養水路其他小溝等ニ於テ三間乃至
五間ノ間ヲ堰キ留メ水ヲ排除シテ魚兒ヲ捕獲スル法ア

リ順次上流ヨリ下流ニ及ホシテ在ルトコロノ魚兒ヲ全ク捕盡スルモノトス

兵庫縣

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

水族ノ生産スル期節左ノ如シ
々々 樂寺村 大磯村 湯島村 樂村 小島村 磯村 湯島村 樂村

品名	イヌ	ハ工	沙魚	鯽	鯿	黒鯛	鮪	鮎	鰯
初卵ヲ孕ミタルモノヲ	二月	四月	十一月	四月	二月	五月上旬	二月	八月	三月
又最後ニ捕獲セシ月	六月	九月	二月中旬	九月	六月	七月中旬	六月	十月	四月下旬
其卵十キ魚ヲ初メテ捕獲セシ月	七月	十二月	二月下旬	十二月	七月	七月下旬	七月	十一月	五月上旬

六段系

泥 龜	キ バ	鯿	鮭
年中孕卵セシヲ見ル然レ 氏産卵ハ概子七八月トス	二月	三月上旬	八月
	六月	三月下旬	十二月
	七月	四月上旬	十二月

第二款 生産場

鮭ハ河口ヨリ四里許リノ上流ニ遡リ淺瀬ニシテ流勢強ク川底ハ荒砂又ハ大砂利等ノアル處ヲ掘リテ産卵ス孳化ノ後漸ク深處ニ至リ長ケ凡ニ寸許リトナリテ海ニ入ル大磯村調査ニ○鯉ハ川岸ノ草根等ニ産卵ス然レ氏多クハ洪水ノ期ヲ待テ低田ニ登リ稻ノ刈株或ハ草根等ニ産付ス孳化後稍成長スルニ及ンテ漸ク川ニ移ル若シ旱魃甚シキ片ハ為ノニ死スルモノ多シ○鮒及鯰ノ産卵地等ハ鯉ニ全シ○イヌハ淺深ニ抱ハラヌ川底石或ハ砂利等ニ産卵シ孳化後沿岸洗場ニ於テ生育シ長スルニ隨ヒ漸ク深處ニ移ル○鰻ハ産卵地詳ナラス其魚兒ハ沼等ノ泥水ニ生産シ長スルニ隨ヒ川ニ出ルアリ或ハ沼池等ニ成長スルアリ○鰻兒即チ鰻ノ産卵地詳ナラスト雖氏其

生育スル場所ハ初メハ沼等ノ泥水ニ育チ長スルニ隨ヒ
 漸ク海中ニ移ル○鯽ハ川磯ノ石又ハ抚等ニ産卵シ孳化
 後其處ニ於テ生育ス○イヌハ澄流水深ノ石或ハ沙ニ産
 卵ス上山村調○サヨリハ本村沼内ノ藻ニ産卵シ孳化後
 其所ニ於テ生息シ成長スルニ隨ヒテ海ニ出テ翌年二三
 月頃孕卵ノ頃遡上シ来ル樂々浦村調○鮒鯰イヌ等ハ
 本村沼内ノ藻ニ産卵シ孳化後其所ニ於テ生育シ又ハ溪
 流ニ遡ル桃島村調○ハセグズハ泥土ノ中ニ産卵ス小島
 査ルニ○泥亀ハ陸上ノ小砂地ヲ掘リ卵ヲ産付シ土ニテ其
 上ヲ覆フ孳化ノ後漸ク泥中ニ移ル妙樂寺村調

第三款 有害物

イヌ及鯰ハ鮭兒ヲ害シ又鶉カイツブリ等ハ諸魚ヲ害ス
 ルヲ取ナカラス然レモ未ク防禦ノ法ヲ得ス大磯村調

第四款 蕃殖ヲ謀ル場所

水川ハ從來鮭魚ヲ産スル一少ナカラス依テ其繁殖ヲ計
 ラン為メ會社ヲ興シ明治十四年ヨリ教師ヲ聘シ本郡滝
 村ニ養魚場ヲ設ケ人工孳卵ヲ創業シ其成長セシモノハ本
 川ニ放流セリ未タ著シキ結果ヲ得スト雖氏放流セシモ
 ノ成長シテ年々遡上スルニ至レリヨ大磯村以下調査シ○樂々
 浦村ノ沼ハ周圍三十一丁面積二十九丁ニシテ水清ク深
 キ處ハ三間余夏日ニ至レハ汐水出入スルヲ以テ鮭魚飼
 養ノ場所ニハ最モ適スヘシト思惟ス○桃島村今井萬三
 郎ハ明治十六年全十七年ノ兩年間丹波國氷上郡産ノ鯉
 苗數萬ヲ買入レ住村ノ沼ニ養育シ頗ル好結果ヲ得ント
 スルノ景況ナリシカ不幸ニノ全十八年七月大供水ノ為
 ノ悉皆水川筋へ游出シ為メニ非常ノ損耗ヲ被レリ然レ

氏屈撓ノ色十ク尚其蓄養ニ熱心セリト云フ本川ニハ近
来鯉魚ノ欠乏ヲ先々シモ為ノニ大ニ蕃殖セリ惟クニ本
川ハ鯉魚甚夕適セリ宜シク之ニ倣フテ其蕃殖ヲ圖ルベ
キナリ

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

佐野村 九市上町村 九市下町村 妙樂寺村 豊岡豊田町 全水町
全寺町

舊藩時代ニハ漁者ノ外除テ族ヲ総テ漁獵ヲ禁セシメ
リ維新後尚之ヲ慣行シ妄リニ他ニ漁獵スルモノモ十
ク漁者ハ相當ノ收穫アリシカ爾来漸ク慣行ヲ破リ遊
漁スルモノ年一年ニ増加シ遂ニ魚類ヲ生産ノ減耗シ
目今ノ景況ニテハ維新頃ニ比シ殆ント十分ノ一ニ至
ラス又漁者ノ如キハ概子餘業ナリシカ追次廢止スル
モノ歟十カラサルノ景況ナリ

大磯村

本村一般ノ漁業ハ其景況佐野村ニ全シ但シ鮭漁業ハ

水村ニ漁場ヲ專有シ之ヲ營ムト久シ其起原ヲ尋ヌル
 ニ今ヨリ凡八百六十餘年前即千後一條天皇ノ御宇ニ
 在テ大磯村今ノ大磯ノ濱人ニ紀ノ藤次紀ノ藤六蘆原四
 郎兵衛ナルモノ平常漁業ヲ營ミタリ然ルニ治安三年
 ノ頃藤次藤六計ラヌ水中ニ異常ノ魚アルヲ發見シ蘆
 原四郎兵衛ト謀リ繩ヲ結ビ大網今起原網ヲ作リ之ヲ
 投セシニ果シテ鮭魚二尾ヲ得タリ此時觀世音ノ像其
今ニ本郡妙樂寺村ニ安置シ世人尊信是レヨリ鮭漁起
スルトコロノ鮭網觀世音是レト云フ降リテ正徳二年
 リ爾來繼續シ漸次其法進メリト云フ降リテ正徳二年
 ニ至リ時ノ領主ニ於テ曳網漁業ヲ命セラル蓋シ從來
 用フルモノハ四人掛リノ小網ニシテ運上ノ外漁獲ヲ
 以テ領主ノ用ニ充タヌニ足ラザレハ十リ依テ今年十
 一月ニ至リ大網新製料トシテ領主ヨリ銀三百目ヲ借

用シテ之ヲ製造シ御用無相違鮭網相勤ノ可申旨ノ受
 書ヲ差出セリ寶曆十一年船町村ヨリ引網ヲナセシカ
 新規ノ旨ヲ以テ領主ヨリ之ヲ停止セリ又文政十三年
 一日市村漁夫二名鮭罩下前記ハ進入セシカ又季
 節中ハ字波渡場ヨリ罩返ハ古來仕来リノ通りナル小
 網ハ鮭網ヲ除クノ外一切漁獵スルヲ停止セリ斯ク
 領主ノ保護ヲ受ケ捕獲上何等ノ影響ナカリシ明治十
 年ニ至リ公業者四十名團結シテ本業ノ隆盛ヲ計畫セ
 リ之ヲ鮭罩仲間ト稱ス其捕獲ノ景况ヲ見ルニ明治元
 年頃ハ凡千尾前後ニ止リ降テ全十五年ニ至リ千三百
 有餘尾全十六年ハ凡九百余尾全十七年ハ三千尾全十
 八年ハ九百餘尾全十九年ハ六百八十餘尾ナリキ抑明
 治十五年以來ハ鮭苗放流ノ事業ヲ實施セシニヨリ捕

獲數ハ漸次増加スヘキ筈ナルニ前述べ如ク時々既往ノ數ヨリ減少シ著シク増殖ノ結果ヲ現ハサバルモノハ蓋シ其年ノ氣候如何ニ因ルヘク而シテ本川ニハ毎年多少ノ洪水アリ為ノニ本村ニ常設セシ鮭罟網ヲ流失シ鮭魚ハ多ク上流ニ遡上シ去ルノ不幸ニ遭遇スルト少カラガルニヨルヘシ故ニ圓山川全体ニ於テ捕獲スル處ノモノハ必ス年々多少ノ増加ヲナセシトナラ

六地藏村 船町村 官島村 一日市村 赤石村

漁業ハ従前ニ比スレハ大ニ衰ヘリ蓋シ相當ノ保護ヲ為サズ濫漁ノ景況ナルニ由ルヘシ

野上村

本村ハ蠅取ノミヲ以テ業トス往古ニ比スレハ漁民増

加シ隨テ産額ヲ減セシ有様ナリ

上山村

本村漁業ハ維新前ニ比スレハ大ニ減少セリ其收穫維新前ハ一ヶ年凡七十圓ニシテ一人平均五圓ニ當リシガ現今ハ一ヶ年二十八圓一人平均四圓ニ割合ナリ

今津村

明治八年頃鮭漁ヲ行ヘリ其際ハ收穫常ニ多ク一ヶ年凡百四十圓ニシテ一人ニ付十四圓程ナリシカ談漁業ヲ廢セシ以來参第一章第ニ款收穫凡三十圓許ニ減シ一人平均凡三圓ニシテ甚タ衰微セシ景況ナリ

戸島村

維新前ハ漁船漁夫等何レモ甚タ僅少ナリシカ現今ニ至リ稍増加セリ然レモ捕獲ハ甚タ僅少ナリ

湯島村

維新前ハ漁船漁夫等甚ク僅少ナリシカ現今ニ至リ稍
増加シ捕獲尚盛大ト稱スルニ及ハスト雖氏総額ハ維
新前ニ比シ概子三倍多キヲ致セリ

挑島村

本村漁業ヲナスモノ僅カニ一二名ニ過キサリ然レモ
治十七年本村今井萬三郎ナルモノ本川ニ連浴セサル
官有ノ沼ヲ借用シ養鯉法ヲ起セシカ許多ノ收穫アリ
是ヨリ漁夫増加シ明治元年頃ニ比シ三倍ニ達シ繁盛
ノ景況ナリシカ全十九年五月洪水ノ難ニ遇ヒ親鯉悉
ク逸去シ為メニ非常ノ困難ニ陥リ然レモ漁業者尙
屈撓セス常ニ回復ノ計畫ヲナセリト云フ

樂々浦村

六艘網漁業ハ明治元年頃迄使用シ来リシカ今年以來
有害トナシ漁夫仲間ノ約束ヲ以テ之ヲ廢セリ然ルニ
之レヨリ漁獲減シ本業ノ衰微ヲ致セリ

明治元年以前ハ漁業專業者目下ト差異ナキニ年々ノ
輸出額凡三百六十圓許ニシテ一人平均十二圓ナリシ
カ六艘網漁業廢止以來漁獲大ニ減シ凡百三十五圓ノ
輸出年額ニシテ一人平均五圓トナリ非常ノ衰微ヲ顯
セリ

小島村

本村ハ明治十四年迄ハ氣比濱引網ノ株ヲ所有シ相當
ノ海漁ヲナセシモ該株ヲ氣比村ニ譲リ爾來漁業大ニ
衰微セリ詳細ハ鹹水漁業ノ部ニ示ス

氣比村

本村ハ海漁ヲ專ラニシ川漁ハ甚夕微々夕リ故ニ著シ
 キ盛衰十シ
 以上各地ノ概況ヲ記述セリ尚左表ヲ掲ケテ一般ノ状ヲ
 示スヘシ

漁業概表

種別	曳網類 數量	刺網類 數量	建網類 數量	敷網類 數量	旋網類 數量	抄網類 數量	掩網類 數量
村野佐				四	一	一	三
村持樂妙							
村市九日 町上日			一	八	一	六	二
村市九日 町下日				六		二	五
村磯大	二		一	三		一	六
町磯大				一			六
町水同				一			三
町寺同				一			三
村磯北六							二
村町船				六			六
村島宮						六	二
村上野						四	九
村市町				六			九
村石赤							三
村山上							四
村津今				九			二
村島戸							三
村島湯							八
村島桃				八			七
村瀬祭				五			三
村島小				七			九
村比氣	二						五
合計	四	二	三	三八	二	六	一九

手釣類 數本	繩釣類 數桶	叉釣類 數共	扶扶類 數共	荷簾類 數箇	漁船 數艘	漁民 數人
	一	一			一	一
	六	二			一	一
	六	二			二	三
	五	一		六	六	九
					二	二
					一	一
					一	一
					一	一
					六	四
					二	二
					四	八
					二	三
					七	七
	三				三	七
					九	八
	二				二	二
	四				八	百

系

兵庫縣漁業慣行錄卷之二十二終

兵庫縣